

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(12月5日～12月11日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。12月5日から12月11日までに8197件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは7件でした(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(12月5日～12月11日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島 県	農産物	204	0	—	栃 木 県	農産物	109	0	—
	畜産物	467	0	—		畜産物	1298	0	—
	水産物	194	0	—		水産物	1	0	—
	牛乳乳児用食品	8	0	—		牛乳乳児用食品	10	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	88	7	イノシシ
	飲料水、その他	61	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮 城 県	農産物	82	0	—	群 馬 県	農産物	23	0	—
	畜産物	936	0	—		畜産物	868	0	—
	水産物	52	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	5	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	5	0	—
茨 城 県	農産物	32	0	—	千 葉 県	農産物	8	0	—
	畜産物	580	0	—		畜産物	106	0	—
	水産物	62	0	—		水産物	6	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	1	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの 数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2016年 7月 3日	96.7%	3.3%	0.0%
2016年 7月 10日	96.9%	3.1%	0.0%
2016年 7月 17日	97.6%	2.4%	0.0%
2016年 7月 24日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年 7月 31日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月 7日	96.6%	3.4%	0.0%
2016年 8月 14日	95.5%	4.5%	0.0%
2016年 8月 21日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月 28日	95.8%	4.2%	0.0%
2016年 9月 5日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年 9月 12日	93.4%	6.5%	0.0%

2016年 9月19日	96.8%	3.2%	0.0%
2016年 9月26日	98.8%	1.2%	0.0%
2016年10月 2日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月 9日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年10月16日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月23日	95.3%	4.7%	0.0%
2016年10月30日	94.9%	5.1%	0.0%
2016年11月 6日	98.1%	1.9%	0.0%
2016年11月13日	98.6%	1.4%	0.0%
2016年11月20日	96.3%	3.7%	0.0%
2016年11月27日	94.1%	5.9%	0.0%
2016年12月 4日	100%	0.0%	0.0%
2016年12月11日	93.0%	7.0%	0.0%
2015年11月平均	(93.8%)	(6.2%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで86週連続、基準を超えた魚介類が見つかっていません。検出限界以下ではありますが、わずかに放射性セシウムが検出された割合は93%台となりました。先週が100%となっていたのでこのまま高い割合で維持されると思っていましたが、捕獲される魚介類に有意差があるようです。昨年の11月の平均が93.8%であり、わずかに良くはなっていますが、一気に改善とはいかないようです。何らかの数値が検出されている魚種と地域です。①南相馬市(キツネメバル、コモンカスベ)②いわき市(アイナメ、コモンカスベ、マコガレイ)③富岡町(ウスメバル、シロメバル)④檜葉町(クロダイ)⑤広野町(コモンカスベ、シロメバル、ババガレイ、ムラソイ)でした。今後も監視を継続します。

(2)検査について基準を超えたものについて

①栃木県で捕獲されたイノシシについて基準値を超える放射性セシウムが検出された旨公表されました。

ア. 栃木県那珂川町:イノシシ(140,110,150,110,160,130,140 ベクレル/キログラム)

栃木県那珂川町で捕獲されたイノシシについてはすでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(12月5日～12月11日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.039～0.042 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.046～0.050 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.12～0.13 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.16～0.17 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の5分の1くらいになっています。過去の平均は0.037～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

(4) 京都府で収穫、捕獲した農水産物の結果

京都府で収穫、捕獲されたハクサイ、ダイコン、キャベツ、ブリ、サワラ、マアジ、トマト、黒大豆、ミズナの検査が行われました。結果はすべて不検出(検出限界は17～25ベクレル/キログラム)でした。

3. 関連情報(先週の魚介類の検査のことが記事になっていました)

(1)福島沖の魚介類、全てセシウム検出限界値を下回る(朝日新聞より)

福島県が11月下旬に実施した福島沖の魚介類を対象にした放射性セシウムの検査で、東京電力福島第一原発の事故以来初めて、すべての検体で検出限界値を下回ったことがわかった。県水産試験場は、個体からのセシウムの排出が進んだことや、世代交代で汚染魚が減ったことなどが理由とみている。

検査は事故の翌月の2011年4月に始まり、これまでに186種類、約4万検体を調べた。

当初は国の基準値(1キログラムあたり100ベクレル)を超える検体が9割以上だったが、割合は年々低下し、昨年4月以降は基準値超がゼロになった。県漁業協同組合連合会の自主基準値(同50ベクレル)超えも今年5月以降はなくなり、検出限界値(同15ベクレル前後)未満の割合は90%超で推移していた。

以上